

小学校国語科において言葉に関心を持ち、  
自ら活用できる児童の育成

— 個別と交流による一連の活動の工夫を通して —

研究構想図

長期研修員 森 淳一

言葉に関心を持ち、自ら活用できる児童

意欲的に言葉を使う児童

言葉を使う自信

児童が得るもの

成功体験

完成の見通し

伝わる安心感

相手意識  
目的意識

多様な言葉や  
つなげ方の発見

使える言葉が  
広がる実感と喜び

学習活動

文章の完成

推敲

交流活動

個別の  
思考・表現

言葉を活用する  
～自分の言葉と表現を探す～



交流活動

個別の  
言葉集め

言葉を広げる  
～多くの言葉と触れ合う～



<児童の実態>

- 使える言葉や表現が少ない。
- 自分の言葉の使い方に自信が持てない。

<教師の願い>

- 言葉への関心を高めたい。
- 言葉を吟味して、使える言葉や表現を自ら増やしてほしい。

言葉を広げる



書き表した言葉  
の数の広がり

「冬といたら?」



使える言葉が  
増えて楽しい♪

個別の言葉集め  
平均5.6語

言葉集めの交流活動  
平均8.1語

言葉を活用する



言葉集めの交流活動

自分が考えた表現の  
交流活動

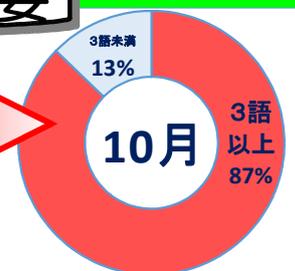
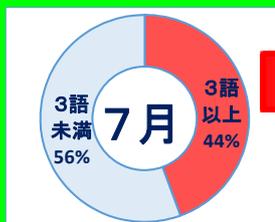
自分の言葉で表現  
できてうれしい♪  
伝わって安心。も  
っと表現したい!

	① 季節を表す言葉について考えられたか	② 自分の考えや思いを書くことができたか
よくできた	83.6%	83.6%
できた	16.4%	14.6%
できなかった	0.0%	1.8%

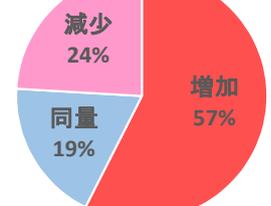
80%以上の  
児童が高い  
達成感を  
得られた

児童の振り返り結果

意欲的に言葉を使う姿



文章の量の比較



表現のために自分で加えた言葉の数

7月→10月

<成果 (○) と課題 (●)>

- 言葉を広げたり活用したりする場面で個別の活動と交流活動による一連の活動を設定したことにより、児童が意欲的に言葉を使い、表現する言葉の数や文章を増やすことができた。
- 個別の活動と交流活動を設定する上で、効果的な場面や回数、教科書教材との関連の仕方を明らかにする必要がある。

<提言>

言葉への関心や自信を高め、児童が意欲を持って言葉を使えるようにするために、言葉を広げたり活用したりする場面において個別の活動と交流活動による一連の活動を設定してみましょう。